



赤湯公民館まつり、ありがとうございました！！

2月15日(土)に、地域行事である赤湯公民館まつりが行われました。今年度も本校から、吹奏楽部の皆さんと赤湯公民館にて職場体験学習を行った皆さんが参加して、演奏会やブースでのイベントを行ってきました。本校が重点を置いて推進する社会参画活動として実施しておりますが、生徒たちは地域の方々の嬉しそうな笑顔に触れ、元気をもらっていきいきと輝いておりました。地域の皆様、いつも赤中生を温かく見守っていただき、本当にありがとうございました。これからも赤中生は、自分たちにできることから地域づくりに貢献してまいります。

2年1組 鶴沢明香里 さん

「宇宙戦艦ヤマト」やたくさん練習してきた3曲を、本番で部員全員が練習どおりに演奏できたので良かったです。観客である地域の皆さんもとても熱心に聞いて下さり、嬉しい気持ちになりました。

2年3組 大沼 泉 さん

最初は、人が来てくれるか、楽しんでくれるかが心配でしたが、皆さん楽しかったと言ってくれて嬉しかったです。小さい子どもも笑顔で写真に写ってくれたので、とてもやりがいを感じました。



3年 飯田 日翔 ~「つながり」を愛言葉に~

「人とはうまく関われない。」以前、私はそう自分で自分を騙していた。

私は、昨年度から始まった市の事業である「南陽みらい議会」に昨年度に引き続き、二期目の議員として参加している。南陽みらい議会は、市内の中高生が議員となり、政策の立案から実現までを行う事業だ。私が議会に参加したきっかけは、単に先生に誘われたからだ。議会の活動は、政策を考え実現する楽しさややりがいを感じると同時に大変さもあった。そして、地域での活動で、人と関わることが多く、人見知りの私は心が苦しくなる時があった。それでも今年度、二期目をやろうと決意したのは、今年の活動が私を変えてくれたからである。

昨年度の議会では、総合型イベントを開催することとなった。イベントでは、謎解き、縁日、市の宣伝動画の撮影が行われ、地域の幅広い年代の方々が、楽しめるようにと企画した。私は主に受付を担当した。受付では、イベントの説明や謎解きと縁日の景品の受け渡しなどを行った。人見知りの私に受付などできるのだろうか。自分のせいで、これまで考えてきた企画を台無しにしてしまうのではないかと。そのような不安と緊張感が混ざり、胸が締め付けられるような思いだった。そんな思いを抱える中、イベントが始まった。私は勇気を出して声をかけてみた。「受け付けはこちらです。」目の前に一人の女の子が駆け寄ってきた。「お姉ちゃん。謎解きがやりたいです！」その女の子はきらきらした笑顔で言った。女の子と一緒に来ていたおばあちゃんも、「頑張っていて偉いねえ。今日のことを私も孫も楽しみに待っていたんですよ。」

これまで感じていた不安や緊張が無くなっていくのを感じた。自分たちの考えた企画を楽しむにしてくれていたこと、自分の頑張りを認めてくれたように感じたこと、そして、自分が人との関わりを楽しめていることが嬉しかった。私は今まで知り合いとしか話すことができなかった。初対面の人や自分が関わりたくないと思った人には自分で壁を作ってしまった。でも、イベントでは、自分で壁を破り、人との関わりを楽しむことができた。イベントの終盤には、宣伝動画の撮影を行った。動画の内容は、イベントに来てくれた人が集まり、「いいどご、南陽！」と叫ぶというものだ。本番、カメラのスイッチが入った。子供からお年寄りまで、カメラに向かって、「いいどご、南陽！」と叫んだ。私は、涙が出そうになった。自分は優しく、温かい地域の人たちに囲まれ、幸せに暮らしているのだと実感したのだ。それと同時に、地域の人たちへの感謝の思いがあふれてきた。この経験から、私は自分を変えてくれた地域の人たちに恩返しをしたいと思うようになった。その思いを「綺麗事だ」と言われたこともある。でも、地域の人たちのつながりを深め、幸せに暮らせる社会にしたい。これが私の本心だ。

そう思う一方、世の中では犯罪が後を絶たない。悲しい現実がある。犯罪は決して許されない。だから、社会では犯罪者を一方的に「悪」と決めつけてしまう。そして、更生し社会復帰しようとしても、そういった偏見のせいで、孤独になり、また犯罪をしてしまう。こういった悪循環が世の中では生まれているのだ。果たして犯罪者は全員「悪」なのだろうか。犯罪は止められないのだろうか。テレビで、障害の罪で少年院に収容されている、ある男性の話聞いた。その男性は、「日常を、楽しい、と思える瞬間は無かった。親からの暴力に、周りの人からの差別が当たり前だった。だからひねくれてしまったけど、今とても後悔している。」と語っていた。このように犯罪は、自分を取り巻く環境が孤独を生むことが原因で起こってしまうことが少なくない。ただ一人で悩んでいる人が周りにもいるかもしれない、そう思うようになった。犯罪や非行を社会から完全に無くすというのは難しいことかもしれない。だからこそ、地域とのつながりを増やし、思いやりの心を持つべきだと思う。地域の人たちに、「こんにちは」と挨拶してもらったら返したり、誰にでも分け隔てなく接したりと、小さなことでいい。そうすれば、自分から優しさの輪が広がり、一人ひとりが人とのつながりを感じ、安心して過ごせる社会をつくれると思う。人は一人では生きていけない。だから、以前の私のように、自分で壁を作ることなく、周りを受け入れ、少しでも居場所を作っていくことが大切だと思う。地域との「つながり」。一人ひとりがこれを愛言葉にし、周りの人たちを大切に生きていける社会になることを私は願っている。